（1）　2版　明治20年創刊　第37717号（第3種郵便物認可）　THE JOMO SHINBUN　2000年（平成12年）4月3日（月曜日）　（日刊）

上毛新聞
発行所（〒371−8666）
前橋市古市町1−50−21
上毛新聞社
電話 市外局番（027）
（編集）254−9933（広告）254−9944
（販売）254−3131（事業）254−9955
（印刷）254−9985（出版）254−9966
（システム）254−9936（発送）254−9984
（総務）254−9977（総合）254−9911

© 上毛新聞社 2000年

春のひととき
和やかにお寛ぎいただける
福一で
伊香保温泉
福一
TEL0279-20-3000

きょうの紙面

学生交流、10年で倍増（2）
有珠山の噴火依然続く（3）
独禁法訴訟で判決へ（6）
少子化で学生服出荷減（8）
松井田で山口薫作品展（16）
高崎で9合唱団が練習（22）
氷彫刻で世界3位に（23）
榛東などで不審火4件（24）

☎ 027-254-9922
FAX 027-251-4334

http://www.raijin.com/

# 小渕首相が緊急入院

## 臨時代理に青木長官

小渕恵三首相

小渕恵三首相は二日、体調を崩し、都内の病院に入院した。

青木幹雄官房長官は二日午後十一時半から、首相官邸で緊急に記者会見し「首相は二日午前一時ごろ、過労のため順天堂医院に緊急入院した」と正式に発表した。

青木長官は「検査中で結果が判明次第、発表する」と述べた。また同日夕、首相と会ったことを明らかにし、その際は「意識はあった」と述べた。

首相臨時代理については「これから考える」と述べた。自民党幹部は同日夜、首相が当面公務をとれないため、青木長官を首相臨時代理に任命する方針を明らかにした。

首相は、自由党の連立政権からの離脱問題で一日夜、自由党の小沢一郎党首、公明党の神崎武法代表と首相官邸で党首会談を行い、自由党との連立解消を決断した。一連の離脱問題への対応で心労が重なっていたとの見方も出ている。

首相は心臓の持病があり、一九八七年にも発作で倒れたことがある。

### 兄光平氏が上京

小渕首相の実兄で中之条町長の小渕光平氏は、同日午後九時半ごろ、首相側近から電話連絡を受けて同町伊勢町の自宅から急きょ上京、入院先に向かった。

小渕町長夫人の小夜子さんは「一日も早く治ることを祈るしかありません」と話していた。

### 大変驚いている

小寺弘之知事

小寺弘之知事は「突然の話で大変驚いている。一日も早い回復を願っています」とコメントを寄せた。

### 豚、牛、牛乳 前年下回る

1999年生産費

関東農政局群馬統計情報事務所は二日までに、肥育豚と肥育牛、牛乳の一九九九年生産費を発表した。費用合計から副産物価額を差し引いた生産費（百キロ当たり）は、いずれも前年を下回った。一頭当たりの粗収益は去勢若齢肥育牛だけが前年より増えた。

肥育豚は九八年七月から九九年六月までの調査。生体百キロ当たりの生産費は二万二千三百七十六円で、前年に比べ一二・一%の減少。一頭当たりの粗収益は、販売価格が低下したため、前年より四・六%減の二万八千七百五十三円だった。

肥育牛は九八年八月から九九年七月までの調査。去勢若齢肥育牛の生体百キロ当たり生産費は十万二千五百六十円で前年より三・六%減少した。一頭当たりの粗収入は七十二万九千七百六十六円（前年比六・三%増）。

乳用おす肥育牛の生体百キロ当たり生産費は前年比一・三%減の四万八千六百四十四円。一頭当たりの粗収益は三十一万八千六百十四円で、前年比で二〇%の減少となった。販売価格が大幅に低下したのが原因。

一方、牛乳の調査は九八年九月から九九年八月までの一年間。生乳百キロ当たりの生産費は前年より二・二%少ない八千四百五十九円だった。搾乳牛一頭当たりの粗収益は七十五万五千八百九円。子牛価格の低下などにより、前年に比べ〇・七%のわずかな減少となった。

前橋移動編集局

## あっちもこっちも全部見たーい

### 大宇宙フェスティバル大にぎわい

前橋市のグリーンドーム前橋で開催中の「大宇宙フェスティバル二〇〇〇」（前橋市、上毛新聞社など共催）は二日、日曜日と重なったこともあって春休み中の親子連れなどで観客数がピークに達し、宇宙旅行のシミュレーションマシーンなど随所で長蛇の列ができた。フェスティバルは五日まで。

フロア中央でライトアップされ、鈍い銀色の光を放つH・IIロケットエンジンを前に、自動車部品を扱う仕事をしている同市内の長瀬健さん（三〇）は「車のエンジンとは比較にならないほど複雑」と感心。日本原子力研究所高崎研究所のブース前では、ボタン型電池の開発者、須郷高信・同研究所放射利用開発室長が、スプーンを磁石に変える実験などで子供たちの目をくぎ付けにした。

一方、フェスティバル開催を記念して同市千代田町の銀座イベント広場で行われた前橋移動編集局関連行事にも大勢の市民らが参加し、青空の下でさまざまなイベントを楽しんだ。

前橋移動編集局特集14－15面

多くの家族連れなどでにぎわっている大宇宙フェスティバル

## マイカーからバスへ

# 乗り換え「駅」設置

### 県央中心にモデル路線

都市中心部の交通渋滞解消策として県は近く、自転車やマイカーと公共交通を結びつけた「県民の足を守る生活道路」のネットワークづくりに着手する。幹線道路、サイクリングロードなどに自転車やマイカーの「駅」を設け、バスに乗り換えることで車の乗り入れを抑制する計画だ。通勤時間帯の交通実態調査などを行った上で県央地域を中心に複数のモデル路線を選定、二〇〇一年度から運用する。実施にあたっては民間を含めた推進母体の協議会を組織し、マイカー依存を見直す新しい県民運動にしたい意向だ。

車社会の本県は道路渋滞と公共交通の衰退が深刻化しており、県はその打開策として生活密着型の交通ネットワーク整備を提案。本年度は八百万円をかけ計画策定の調査などを行う。

導入地域は前橋、高崎市のほか、東毛の一部で検討する。交通実態調査や住民アンケート、沿道の土地利用調査を経て具体的なモデル路線を選定する。前橋市の場合、中心部から東西南北に延びる国道50号、県道前橋安中富岡線、県道前橋長瀞線、国道17号などが候補に挙がっている。

各路線のバス停付近に「自転車の駅」や「マイカーの駅」を設置し、公共交通網が手薄な郊外の住民のバス利用を後押しする。ただ、都市中心部への交通手段はバスへの乗り換えだけでなく、マイカーから自転車、バスから自転車―などさまざまなルートを整備する方針で、県内各地のサイクリングロードを活用していく。

導入にあたって企業などに協力を呼びかけ、通勤時の生活道路利用を推進する。

県内では一九八一年当時、官公庁と民間百二十八事業所を推進団体とする「ノーマイカー・デー（毎月一日と十五日）運動」がスタート。バス路線の相次ぐ撤退で実施が困難となり五年前に立ち消えとなった経緯もあり、県民の対応が注目される。

県内の自転車利用者は九〇年国勢調査で約十六万三千人を数え、一日平均の利用時間は通勤十二分、通学二十四分となっている。運輸省の九六年旅客輸送分担率（交通機関別の利用率）では、マイカーが全国最高の九一・〇%、バスが全国最低の一・一%と、特異な交通事情が浮き彫りになっている。

生活道路網は、県の道路建設課と交通政策課が合同して計画策定にあたる。自転車や公共交通の利用は、環境対策や高齢者の生活足の確保などでも切迫した課題で、県道路建設課は「計画を一過性のものに終わらせるつもりはない。いろいろな意味で意識改革を働きかける必要もあり、継続して長期的に取り組んでいく」としている。

## 町村人事異動名簿は10－11面

### インターネットの指導者を養成

県長寿社会づくり財団

県長寿社会づくり財団（理事長・小寺弘之知事）は二日までに理事会を開き、高齢者の社会参加を後押しするインターネット指導者養成研修事業をはじめとした本年度事業計画をまとめた。同財団は高齢者の健康づくり、能力活用、雇用促進などの活動とあわせ、定年退職者の生きがいづくりを支援。本年度は新たに、同研修事業を通してパソコン利用を指導できる高齢者を養成し、サークルづくりなどに役立てる。同財団の年間予算は約二億三千六百万円で、生きがいづくり支援策では高齢者自ら企画、立案する事業への補助なども行われる。

### 男女別学や家庭内暴力問題

# 共同参画社会へ提言

### 県に新ぐんま女性プラン委

県に女性政策などを提言している新ぐんま女性プラン委員会（富岡恵美子会長）は、県が本年度から策定作業に入る県男女共同参画行動計画（仮称）に対する提言をまとめ二日までに、小寺弘之知事に提出した。提言では、本県で特徴的な公立高校の男女別学の問題点や近年、問題化している家庭内暴力への対策の必要性などを指摘している。これを受け、県は本年度に県民フォーラムなどで県民の声を集約し、計画案を取りまとめる。

同参画行動計画は、一九九三年度から二〇〇〇年度までを期間とする新ぐんま女性プランの後継計画。昨年六月に成立した男女共同参画社会基本法に基づき、二十一世紀の本県の女性政策の方向性を示すものとなる。

同委員会は、同プランのスタート以来、本県の女性施策の検討や同プランの進ちょく状況のチェックなどをしており、今回は、新法の施行を踏まえ、本県の女性政策を根本的に見直す機会ととらえ、独自に意見をまとめた。

提言は、小寺知事からの諮問に基づくものでなく、文章もすべて同委員会委員で執筆したのが特徴。このため、公立高校の男女別学率が全国一と言われ、しかも伝統校に別学が多いことなどを挙げ、特に男子生徒に対する平等意識育成の困難さを指摘。さらに、男女混合名簿の導入など制度面の見直しに言及するなど、踏み込んだ内容となった。

また、夫や恋人からの暴力が夫婦関係の破たんの大きな要因となっていることなどを踏まえ、被害女性の相談窓口設置、被害女性と子供の一時保護施設などでの被害者支援の必要性を指摘するなど、現実的課題への対策も盛り込んだ。

提言を受け、県は全庁組織の女性行政推進連絡会議にワーキンググループを設置し、今年夏をめどに素案を作成。これをインターネットなどで公開するほか、県内四カ所で県民フォーラムを開催し、素案に対する県民の声を集約し、年度内の同計画決定を目指す。

### 県内の天気

数字は降水確率（左から午前・午後・夜）

北部

きょう　10｜30｜30
北のち南東の風、曇り。昼すぎ所により一時雨。

あす　30
南東の風、曇り時々晴れ。

南部

きょう　10｜30｜40
北のち南東の風、曇り。昼すぎ所により一時雨。

あす　30
南東の風、曇り時々晴れ。

予想気温　あす
最低　6度
最高　14度
（前橋）

きょうの月
月齢 27.9　月出 4:49　月入 16:29

週間予報
5（水）　6（木）　7（金）　8（土）　9（日）

### 三山春秋

今、小中学校では不登校、いじめ、学級崩壊など、悲しい事件が多発している。そうした記事を読むたびに、気が重くなる。子どもたちが楽しく学べる場所、そんな学校はできないものだろうか。世の親たちの切実な願いだ▼それだけに小渕首相がスタートさせた「教育改革国民会議」に、期待している父母は多いのではないか。これまでにも中教審が改革の処方せんを何回も書いたが、症状の改善は見られなかった。同会議が一年後をめどに出す新処方せんに期待したい▼それにしても、学校は何が原因でこんなに荒れてしまったのだろう。県私立大学協会の平方昇一会長の説明はわかりやすい。「戦争が終わり、自由主義と個人主義が入ってきたが、それらはこの半世紀の間に、自由放任と利己主義に姿を変えてしまった。それが人権軽視、そしていじめなどにつながっている」▼会議では「高卒後の一年間は、体と心を養う期間として社会奉仕期間としたら」「六・三・三制から四・四・四制に改めたら」など、二十六委員が活発に持論を展開した。教育は間口が広い。特効薬探しは難しいだろうが、なんとか見つけてほしいものだ▼委員から異口同音に叫ばれたのは「家庭教育の再構築」だ。確かに、子どもを厳しくしつける家庭は少なくなった。思いやり、やさしさなどの教育は、しつけの範ちゅうだ。甘い親が増えたのも、学校荒廃の一因だろう▼ラフカディオ・ハーンこと小泉八雲は「日本の子どもの微笑は、家庭教育の全期間を通して育てられる」と書いている。父祖たちは、ほほ笑みさえもしつけていた。

伊香保温泉
女性のための、ラッキーデー
レディーススペシャル花暦
お一人様10,000円
5つの特典（一泊二食付、税別）
1 ゆうゆうタイム ●13時チェックイン ●11時チェックアウト
2 お楽しみティータイム
3 切り絵の体験教室（16時～18時）
4 夕食はレディースメニューをご用意します
5 食後のコーヒーをサービス
■1室4名様以上でお申し込み下さい。（2～3名様の場合はご相談下さい。）
○期間 4月17日～20日
フェイシャルマッサージを開始致しました。どうぞご利用下さい。
伊香保温泉
☎0279-72-2680
FAX 0279-72-2683

銀行がぐ～んと便利になりました。
本日より
全店で投資信託のお取扱いができるようになりました。
（大阪支店および出張所は除きます）
あなたの街でも買える投資信託
投資信託のことならお近くの群馬銀行に、まずご相談ください。
MMF・公社債投信から株式投信まで、お客さまのニーズに合わせてお選びいただけます。
詳しくは、最寄りの群馬銀行本支店（大阪支店および出張所を除く）まで。
＜お電話でのお問合わせ先＞
027-254-7203　法人部投資信託グループ
本日デビュー
ぐんぎん積立投信
「ぐんぎん積立投信」とは…
毎月一定金額（1万円以上1千円単位）をお客様の預金口座から引き落とし、自動的に投資信託を購入するサービスです。
○月々1万円から始められます。
○ファンドも複数選べます。
○無理なく計画的な資産形成ができます。
あなたの夢、応援します。
群馬銀行
インターネット http://www.gunmabank.co.jp/
投資信託は、預金保険および投資者保護基金の対象ではございません。投資信託は、預金と異なり、元本および分配金の保証はありません。
投資信託の運用による損益は、投資信託をご購入されたお客様に帰属いたします。お申込みの際は、受益証券説明書または目論見書をご覧ください。

この印刷物の文章・写真等の著作権は上毛新聞社が保持しています。無断転載、複製及び頒布は禁止します。